

2025年第4回東京競馬特別レース名解説

<第1日>

○八ヶ岳特別

八ヶ岳（やつがたけ）は、長野県東部から山梨県北部にまたがる南北約20kmの大開析火山。最高峰は標高2,899mの赤岳。山腹と裾野は草原で、清里高原、野辺山高原などが広がり、高冷地野菜の栽培、牧場などに利用されている。

○エクセル田無開設30周年記念 白秋ステークス

本競走は、エクセル田無開設30周年を記念して実施される。

白秋（はくしゅう）は、秋の異称。中国の五行思想では、四季に色を当てはめ、それぞれ「青春・朱夏・白秋・玄冬」と表現される。

○開局30周年記念 グリーンチャンネルカップ（L）

本競走は、グリーンチャンネル開局30周年を記念して実施される。

同局は、BSデジタル放送、CSデジタル放送および全国のケーブルテレビなどで、中央競馬のレースを中心とした競馬情報と各種農林水産情報を放送している放送局。本競走は、同局より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○tvk賞

tvkは、横浜市に本社を置くテレビ神奈川の略称。1972年開局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○赤富士ステークス

赤富士（あかふじ）は、早暁のわずかな時間に富士山が朝日に照らされ赤く染まる現象。晩夏から初秋にかけて見ることができる。葛飾北斎の「凱風快晴」をはじめとして、多くの絵画の題材に用いられている。

○毎日王冠（GⅡ）

本競走は、1950年に創設された重賞競走。当初は芝2500m、定量の勝抜制で実施されていた。1955年に負担重量が別定重量に改められたことを機に、過去の優勝馬にも出走資格が与えられ、1984年に現行の1800mに変更された。

なお、第1着馬には同年の『天皇賞（秋）』への優先出走権が与えられる。

毎日新聞社は、東京など全国4ヶ所の本社と、北海道に支社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

＜第3日＞

○陣馬特別

陣馬（じんば）は、東京都八王子市と神奈川県相模原市との境にある標高855mの陣馬山のこと。ハイキングスポットとして人気が高く、丹沢・富士山・奥多摩・筑波山・関東平野などを見渡すことができる。山頂には白馬のモニュメントが設置されている。

○東村山特別

東村山（ひがしむらやま）は、東京都多摩地域北部の市。緑豊かな衛星都市として栄えている。郷土民謡の「東村山音頭」は全国的に有名。

○日本・サウジアラビア外交関係樹立70周年記念

サウジアラビアロイヤルカップ（GⅢ）

本競走は、日本とサウジアラビア王国の外交関係樹立70周年を記念して実施される。

本競走は、2014年に『いちょうステークス』の名称で創設された重賞競走。2015年に日本とサウジアラビア王国の外交関係樹立60周年を記念して、回次も新たに現在の名称となり、2016年にはGⅢに格付けされた。

本競走は、サウジアラビアジョッキークラブより寄贈賞を受けて実施されている。

＜第4日＞

○鷹巣山特別

鷹巣山（たかのすやま）は、東京都奥多摩地区にある標高1,737mの山。埼玉県の上野原から雲取山を経て、七ツ石山、六ツ石山へと続く奥秩父山塊の途中にある。

○テレビ静岡賞

テレビ静岡は、静岡市に本社を置く放送局。1968年の開局で、FNS（フジテレビ）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○アイルランドトロフィー（GⅡ）

本競走は、2025年に創設された牝馬限定の重賞競走。『アイルランドトロフィー府中牝馬ステークス』の競走名を改称し、回次も新たに実施される。また、アイルランドのレパーズタウン競馬場との交換競走である。同競馬場は、ダブリンの南に位置し『アイリッシュチャンピオンステークス』などが実施されている。

なお、第1着馬には同年の『エリザベス女王杯』への優先出走権が与えられる。

＜第5日＞

○プラタナス賞

プラタナス（Platanus）は、スズカケノキ科スズカケノキ属の落葉高木の総称。ヨーロッパ南西部からアジア西部が原産地で、日本には明治時代に伝わったとされる。花言葉は「天才」「非凡」。

○昇仙峡ステークス

昇仙峡（しょうせんきょう）は、山梨県甲府市と甲斐市にまたがる峡谷。正式名称は御岳昇仙峡。荒川の急流が花崗岩山地を浸食して形成された奇岩絶壁は、見事な景観を誇り、紅葉の時期は多くの観光客が訪れる。

○オクトーバーステークス（L）

オクトーバー（October）は、10月を意味する英語。ラテン語で「8」を意味する「Octo」が語源とされ、古代ローマで採用されていた3月起算の暦において8番目の月という意。

＜第6日＞

○アイビーステークス（L）

アイビー（Ivy）は、ウコギ科キヅタ属の常緑つる性低木で、蔦（ツタ）の一種。耐寒性に優れ、日陰でもよく育つことから庭園などで栽培されることが多い。花言葉は「誠実」「友情」。

○伊勢佐木ステークス

伊勢佐木（いせざき）は、横浜市中区の地名および商店街。明治時代以来、横浜を代表する繁華街として発展してきた。

なお、イセザキ・モールの中にはJRAの定員制場外勝馬投票券発売所であるエクセル伊勢佐木がある。

○富士ステークス（GⅡ）

本競走は、『ジャパンカップ』の招待を受けた外国馬が出走できる競走として、第1回『ジャパンカップ』と同年の1981年に芝1800mの定量戦として創設された競走。1997年から1400mの別定重量戦として通常の国際競走に改められ、1998年にはGⅢ競走となった。その後、2000年から『マイルチャンピオンシップ』に繋がる競走として、実施時期は11月から10月に、距離は1600mに変更され、2020年にGⅡ競走となった。

なお、第1着馬には同年の『マイルチャンピオンシップ』への優先出走権が与えられる。

富士（ふじ）は、静岡県と山梨県にまたがる円錐状成層火山の名。標高3,776mで日本一を誇る。2013年には、「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」としてユネスコの世界文化遺産に登録された。

＜第7日＞

○東京ハイジャンプ（J・GⅡ）

本競走は、1999年に創設された障害重賞競走。通常の競走では高さ130cmの竹柵2基と140cmのいけ垣が使用されるが、本競走では、高さ150cmの大いけ垣2基と大竹柵に変更して実施される。また、スタンド前のホームストレッチ半ばに可動式障害が設置されることにより、長い直線で最後まで目が離せない争いが繰り広げられる。

○西湖特別

西湖（さいこ）は、山梨県南部にある淡水湖で、富士五湖のひとつ。周辺には溶岩でできた洞窟が存在しており、蝙蝠（こうもり）穴や竜宮洞穴は国の天然記念物に指定されている。

○ブラジルカップ（L）

本競走は、日本とブラジルの修好100周年を記念して1995年に創設された競走。

ブラジルは、南米大陸で最大の面積を誇る連邦共和制国家。同国内にあるガベア競馬場では、『ブラジル大賞』や同国のダービーにあたる『クルゼイロドスル大賞』が実施される。

○甲斐路ステークス

甲斐路（かいじ）は、甲斐国全体に通じている路。甲斐国は、旧国名のひとつで今の山梨県全域に当たる。古代甲斐国は「甲斐の黒駒」という名馬の産地として伝えられている。平安時代には信濃・上野・武蔵とともに天皇直属の牧場が置かれ、毎年都に馬を献上する駒牽（こまひき）が行われていた。

＜第8日＞

○精進湖特別

精進湖（しょうじこ）は、山梨県中南部の富士山北西麓にある淡水湖。富士五湖のひとつで、面積は五湖の中で最も小さい。かつて本栖湖、西湖とはひとつの湖で、「せの海」と呼ばれていたが、富士山の噴火によって現在のように3つの湖に分断されたと言われている。

○河口湖ステークス

河口湖（かわぐちこ）は、山梨県南都留郡の富士山北麓に位置する淡水湖。富士五湖のひとつで、湖面標高は五湖の中で最も低い。湖中には、鵜の島と呼ばれる小さな島が浮かび、縄文時代や弥生時代の土器や石器が多数出土している。

○アルテミスステークス（GⅢ）

本競走は、2歳牝馬路線のさらなる充実を目的として、2012年に創設された牝馬限定重賞競走で、芝1600mの馬齢重量戦で争われる。

アルテミス（Artemis）は、ギリシャ神話に登場する狩猟と純潔の女神。古代ギリシャでは、豊穡や多産の神として人々に信仰されてきた。

<第9日>

○三鷹特別

三鷹（みたか）は、東京都中央部の市。市名は、かつての鷹場であった野方領・世田谷領・府中領の三領にまたがる村々が集まったことに由来する。国立天文台や井の頭恩賜公園があり、同公園内の三鷹の森ジブリ美術館は観光スポットとして有名。

○山中湖特別

山中湖（やまなかこ）は、山梨県南東部にある淡水湖。富士五湖のひとつで、面積は五湖の中で最も大きい。周辺は豊かな自然を生かした高原リゾート地が広がっている。

○神無月ステークス

神無月（かんなづき）は、陰暦で10月のこと。「かみなづき」とも呼ばれる。

<第10日>

○本栖湖特別

本栖湖（もとすこ）は、富士山の北麓にある淡水湖。富士五湖のひとつで、最大水深が五湖の中で最も深い。北岸は富士山の好展望地となっており、美しい富士山を撮影しようと多くの写真愛好家が訪れている。

○紅葉ステークス

紅葉（こうよう）は、秋に落葉樹の葉の色が変化する現象。落葉に先立って、葉で赤色のアントシアニンが生成されるために起こる。一般的に最低気温が5～6℃になる頃に見頃を迎えるといわれている。秋になると東京競馬場周辺の木々も鮮やかに彩られる。

○ペルセウスステークス

ペルセウス（Perseus）は、晩秋を代表する北天の星座。トレミーの48星座のうちの1つで、食変光星のベータ星アルゴルを持つ。名は、ギリシャ神話の英雄ペルセウスに由来する。

＜第11日＞

○百日草特別

百日草（ひゃくにちそう）は、別名ジニア(Zinnia)と呼ばれるメキシコ原産のキク科の植物。日本には、江戸時代の末期に渡来したとされる。花色は紅・紫・白・黄など多彩。開花時期が初夏から晩秋までと長いことからこの名が付いたと言われている。花言葉は「幸福」「絆」。

○国立特別

国立（くにたち）は、東京都中央部の市。市名は、1926年に中央線の国分寺駅と立川駅の間で2つの駅名の頭文字を取った「国立駅」が開業したことに由来する。駅から南に伸びる大学通りは、桜やいちょうなどの木で彩られる。

○秋嶺ステークス

秋嶺（しゅうれい）は、秋の山、嶺のこと。秋は空気が乾燥し、澄んでいるため遠く離れた山々を鮮明に見ることができる。

○天皇賞（秋）（GI）

本競走は、1905年5月6日に横浜の日本レースクラブが、明治天皇から「菊花御紋付銀製花盛器」を下賜され創設した『エンペラーズカップ』を前身とする競走。

第1回の1937年秋は芝2600m、1938年春は2700mで、3歳以上の馬によって争われた。1938年秋から4歳以上3200mの競走条件となり、戦争で中断される1944年春（この時は能力検定競走として非公開で実施）まで続き、戦後の1947年春に『平和賞』の名で復活。同年秋から現在の名称である『天皇賞』となり、春が京都、秋は東京で実施され、長い歴史を誇る『天皇賞』は古馬最高の栄誉とされてきた。1981年には勝抜制が廃止され、過去の優勝馬にも出走権が与えられた。1984年には秋の『天皇賞』を2000mに短縮、さらに1987年には3歳馬にも秋の『天皇賞』への出走権が与えられた。これにより春は4歳以上で長距離の、秋は3歳以上で中距離のナンバーワンを決めるレースへと性格が明確に分けられた。

○清里特別

清里（きよさと）は、山梨県北杜市を中心とした八ヶ岳南東麓に広がる高原。夏は避暑地、冬はスキーなどのリゾート地として有名。また、高原野菜栽培と酪農が盛ん。